

基督教学研究

第 17 号

論文

ルターの神観における神秘的なるもの …………… 金子晴勇 …… 一

ルターの詩編解釈における語り手の問題 …………… 竹原創一 …… 三

エラスムスにおける『反野蠻人論』とヒューマニズム …… 畑 宏枝 …… 五

研究ノート

『ペルシアの賢者』アフラハトの解釈学 …………… 武藤 慎一 …… 七

テイリツヒ『教義学』における歴史の問題 …………… 今井尚生 …… 九

彙報

彙報

一九九六年度基督教教学専修講義題目

水垣 渉 教授 講義 「キリスト教学講義——終末の思想」

特殊講義 「キリスト教思想の成立根拠」

演習 「Athanasius: De incarnatione Verbi Dei」

芦名定道 助教授 講読

「John Hick: Disputed Questions in Theology and the Philosophy of Religion」

特殊講義 「信仰論と宗教言語」

演習 「P. Tillich: Dogmatische Marburger Vorlesung von 1925」

片柳 栄一 講師

特殊講義 「発出と創造——プロテイヌスとアウグスティヌス」

松浦 純 講師

特殊講義 「ルターの思惟——成立と展開」

花岡 永子 講師

特殊講義 「心の問題」

尾崎 和彦 講師

特殊講義 「北欧神話の終末論」

田辺 明子 講師

演習 「新約聖書の聖餐論」

宮谷 宣史 講師

演習 「Augustinus: Confessiones」

勝村 弘也 講師 語学

「ヘブライ語文法と旧約聖書物語テキストの講読」

一九九六年度論文題目

卒業論文 提出者無し

修士論文

坂井 知 「使徒パウロにおける律法の成就と隣人愛——ガラテア五・一四を中心に——」

一九九七年度基督教教学専修講義題目

水垣 渉 教授 講読

「Anthony Kenny: What is Faith? in the philosophy of religion」

特殊講義 「キリスト教学序説」

演習 「Epistula Pauli ad Romanos」

特殊講義 「キリスト教学講義」

特殊講義 「宗教言語とテキスト解釈学」

演習 「P. Tillich: Dogmatische Marburger Vorlesung von 1925」

林 忠良 講師

特殊講義 「ヨハンネス・クリマクスの問題——キルケゴール宗教哲学の基底」

勝村 弘也 講師

特殊講義 「古代イスラエルの詩文学」

語学 「ヘブライ語文法と旧約聖書物語テキストの講読」

花岡永子 講師 特殊講義「心の問題」
棚次正和 講師 特殊講義「祈りの現象学」
岡野昌雄 講師 特殊講義「アウグスティヌス『告白』研究」
高野晃兆 講師 演習 「Ernst Troeltsch: Die Sozial-
lehren der christlichen Kirchen
und Gruppen」

一九九七年度論文題目

卒業論文 提出者無し

修士論文

大石祐一 「エレミアの告白」における預言者の思想と
信仰

嶋村美智子 「ベルナールの『雅歌講解』における神秘主義
の研究」

第一号目次

終末論の二類型	武藤 一雄
キリスト論の視点	森田 雄三郎
初期アウグスティヌスの人間学	金子 晴勇
Lumen Christi	佐藤 吉昭
ルターの „Obigkeit“ に関する一考察	早乙女 禮子
ルターにおける信仰と礼典	竹原 創一
バルト「ローマ人への手紙」における神認識	村山 周治

第三号目次

キルケゴール研究の方法について	小川 圭治
エイレナイオスと聖書	菊地 栄三
テイリツヒの芸術神学について	田辺 明子
絶対の相の下に	片柳 栄一
ルターの律法理解	宮庄 哲夫
聖書へブル語統辞論のテキスト言語学的考察	勝村 弘也

第二号目次

オリゲネスの「キリスト教理解」	水垣 征二
ゲッセマネ	大島 創一
神学における言葉の問題	竹原 創一
アウグスティヌスにおけるキリストの人性について	小池 三郎
ギリシア語旧約聖書における <i>kalos</i> について	伊藤 利行
エルンスト・トレルチにおける „Kompromis“ の概念	安藤 敏真
シェリングに於ける「世界経験」について	森 哲郎
ルターにおける「外」と「内」についての一考察	片柳 俊子

第四号目次

ルターの解釈学は「実存論的解釈」といえるか	今井 吉昭
キプリアヌスの教会理解	佐藤 吉昭
ノビリの印度伝道	塩谷 晃悟
テンブルックのヴェーバー解釈をめぐる論争	高野 晃司
フィロンとキリスト教	平石 善子
ルターの抵抗権思想における服従の問題	早乙女 禮子
創世記テキストにおける語りの技法	勝村 弘也
シェリングに於ける神話と世界	森 哲郎
ヘクサプラ断片の残存率について	伊藤 利行

第五号目次

解釈学的教義学の構成について 森田雄三郎
 内村鑑三と「身体の救い」 原島正
 言語芸術作品としての旧約聖書物語テキスト 勝村弘也
 エルンスト・トレルチにおける
 「歴史の神学」の構想 安酸敏真
 教義学的思考における解釈学的循環の問題 掛川富康

第六号(武藤一雄名誉教授古希記念特別号) 目次

神学的宗教哲学について 武藤一雄
 アレクサンドリアのフィロンにおける
 能動と受動の問題 水垣征二
 奇蹟物語へのマジジナリア 大島征二
 アルバート・シュヴァイツァーの聖餐論への
 新約聖書学的批判 田辺明子
 ヨセフスのモーセ物語について 秦剛平
 エイレナイオスの人間理解 菊地栄三
 キプリアヌスの「棄教者論」考察 佐藤吉昭
 アウグスティヌスの時間論 片柳栄一
 ルターにおける「アフエクトゥス」の問題 今井晴晋
 ルターとアウグスティヌス 金子晴勇

第七号目次

神学的構造主義の問題 森田雄三郎
 M・ヴェーバー「古代ユダヤ教」と
 パーリア民族の概念 高野晃兆
 浄土系仏教とキリスト教の救済論の
 一異に関する考察 原田博充
 日本の伝統的宗教的心情とキリスト教との
 関連について 名木田 薫
 ウイリアム・ケアリの伝道に対する貢献 塩谷 悟
 神概念の転換 小川 圭治

第八号目次

ルターと神学的決定論 金子晴勇
 Inigo Deiとしての精神の自覚の三一的構造 片柳栄一
 脚下照願 武藤一雄
 M・ヴェーバー「古代ユダヤ教」と
 カスバリの批判(一九二二) 高野晃兆
 バウル・テイリツヒと象徴の問題 芦名定道
 キリスト教概念の成立(その二) 水垣 涉
 アルベルト・シュヴァイツァーの「イエス神秘主義」 笠井 恵二

シェリング『自由論』再考(一) …………… 森 哲郎
 ルターにおける職業観の問題 …………… 早乙女 禮子

キエルケゴール『死に至る病』の
 「キリスト教的理解」…………… 信岡 茂浩

第九号目次

西田幾多郎とキリスト教 …………… 小川 圭治
 R・ブルトマンにとつてのイエスの意義に関して …………… 名木田 薫

第十一号目次

旧約物語テキストにおけるヒンネー(見よ)の機能 …………… 勝村 弘也
 シェリング『自由論』再考(二) …………… 森 哲郎
 P・テイリツヒの時間論 …………… 芦名 定道
 キエルケゴールの「自己の定義」について …………… 山本 忠義

創造と進化——創造における無—— …………… 森田 雄三郎
 ルターとカールシュタット(二) …………… 宮 庄 哲夫
 神言表の可能性とその八言述的「合理化」の問題 …………… 掛川 富康
 ヘブライズムとギリシア語聖書 …………… 伊藤 利行
 エラスムスの「敬虔」概念の倫理的基礎 …………… 畑 宏枝

第十二号目次

第十号目次

ルターにおける「体験」の問題——一つの覚書—— …………… 今井 晋

神探求の場の開示 …………… 片柳 栄一
 二つの歴史的社会的イエス研究について …………… 大鳥 征二
 「思い煩う」(ルカ二・二二—二三)について …………… 田 辺 明子

シユタウピッツとルターの神秘思想 …………… 金子 晴勇
 ルターとカールシュタット(一) …………… 宮 庄 哲夫
 ルターにおける試練について …………… 竹 原 創一
 神学主義と宗教主義 …………… 武 藤 一 彦
 オリゲネス『原理論』に於ける悪の問題序論 …………… 久 山 道 彦

レッシングの神学思想——序説—— …………… 安 酸 敏 真
 自由意志論争におけるエラスムスとルター …………… 畑 宏 枝
 アントニオスの修道 …………… 竹 田 文 彦

第十三号目次

内村鑑三における「内と外」の論理	原島正
キリスト教倫理の源泉	名木田 蕉
七十人訳翻訳史序説(一)	秦 剛平
隠喩と神学的實在論	芦名 定道
ニユッサのグレゴリオスの	土井 健司
「鏡における神認識」の存否	松丸 健太
オリゲネスにおける神のエネルギー	林 忠良
キルケゴールにおける論理的問題	内村 公義
罪の自覚——その人間学的考察	笠井 恵二
モルトマンの歴史理解	久山 道彦
——希望の神学と現代世界の問題	土井 健司
探究する聖霊——初期オリゲネスにおける	武藤 慎一
解釈学的原理	高野 晃兆
ニユッサのグレゴリオスにおける	
「鏡」の概念について	
クリュソストモスの解釈学——神理解の	
可能性と不可能性の問題を巡って	
伊藤邦幸氏の逝去を悼む	

第十五号目次

罪をおかすことによつて罪から救贖できる?	森田 雄三郎
——ユダヤ神秘主義の失敗からの警告——	笠井 恵二
ブルトマンと聖書	伊藤 邦幸
アウグスチヌスの恩寵論	武藤 慎一
ニシビスのエフライムの解釈学	
P・テイリツヒにおける「カイロス」と認識	
の形而上学——歴史相対主義の克服	
を巡つて——	今井 尚生
『コヘレトの言葉』の構造と思想	金井 由嗣
——一人称表現の用法をめぐつて——	
第十六号(故武藤一雄名誉教授追悼号)目次	
神・愛・場所——ブーバーから武藤への	水垣 涉
接近の一つの試み——	
アルバート・シュヴァイツァーの聖餐論に	田 辺 明子
おける問題設定	
殉教者カルタゴ司教キプリアヌスの古代殉教	佐藤 吉昭
観の軌跡	

古代教会におけるキリスト教経済思想の形成

——トレルチ「社会学説」研究ノート——

二つの恩恵 ——アウグスティヌス「贖買と

恩恵」十一—十二章……………

ルターのキリスト神秘主義……………

言葉と経験 ——ルターとディオニシウスの

かわり……………

若きレッシングの宗教思想……………

キリスト教の自然理解について——序章——

神の愚かさと人間の賢さ……………

キリスト教の終末論における将来的なものと

現在のなもの……………

「キリスト教と仏教」に関する若干の考察…

モルトマンの聖書理解……………

M・プーバーとハシデイズム……………

Wie wird man seiner Hingeburt gewiß?

——Eine Untersuchung zum Reinen Land

Buddhismus der Heian und Kamakura Zeit

高野 晃 兆

片柳 栄 一

金子 晴 勇

竹原 創 一

安 酸 敏 真

今 井 晋

森 田 雄 三郎

原 田 博 充

名 木 田 薫

笠 井 恵 二

早 乙 女 禮 子

マルティン・レマン

執筆者

金子晴勇 聖学院大学教授

竹原創一 立教大学教授

畑宏枝 就実女子大学嘱託講師

武藤慎一 日本学術振興会特別研究員

今井尚生 京都大学大学院博士課程在学中

第十七号編集実務委員会

小池三郎
高野晃兆
林忠良
片柳栄一
宮庄哲夫
芦名定道

一九九七年十二月二十日印刷
一九九七年十二月三十日発行

定価 一五〇〇円

(本体価格)

発行者

京都大学基督教学会

京都市左京区吉田本町

京都大学文学部基督教学教室内

発行人

小池三郎

発売元

(株)大阪キリスト教書店

大阪市北区曾根崎新地二丁目二五

印刷所

シヤローム工房

本誌の御注文は、最寄のキリスト教書店、もしくは、右記、京都大学基督教学会(振替〇〇三〇一五七二〇七)へ、送料とも一七二〇円(本体価格一五〇〇円、送料二一〇円)を添えてお申込み下さい。

JOURNAL
OF
CHRISTIAN STUDIES

KIRISUTOKYOGAKU KENKYU

Vol. 17

December, 1997

Contents

- A mystical element in Luther's idea of God* Haruo Kaneko
- Vom Sprecher der Psalmen in deren Auslegung Luthers* Souichi Takehara
- „Antibarbarorum Liber“ and Humanism in Erasmus* Hiroe Hata
- The Hermeneutics of Aphrahat The Persian Sage* Shinichi Muto
- Das Problem der Geschichte in „Dogmatik“ P. Tillichs* Naoki Imai

THE SOCIETY OF CHRISTIAN STUDIES
KYOTO UNIVERSITY

Kyoto Japan